

消 こんにちは！
費生活相談室です 84
消費生活相談室 (☎47-1106 FAX44-7957)

携帯電話のトラブル
携帯電話の機能が進化し、日常生活に欠かせないものとなつていますが、トラブルの内容も多様化し、複雑化しています。

◆事例1 覚えのない請求メールが届く
携帯電話に「以前登録された総合情報サイトの退会処理がされていないために延滞金が発生している。このまま放置されると、身辺調査をして回収に行く。早急に連絡を」といった全く覚えのないメールが届いた。《対処法》契約した覚えがなければ、支払う義務はありません。あわてて相手に連絡をすれば、新たな個人情報を出されません。絶対に連絡してはいけません。

◆事例2 巧妙な手口で高額な出会い系サイトへ誘導
出会い系サイトに登録した途端、複数のメールが届く

くようになった。無料と思いついて利用していたが、何通かメールを読んだだけで高額な請求をされた。

《対処法》出会い系サイトには多くの危険が潜んでいます。料金トラブルのほかに、犯罪の温床になっていることも少なくありません。また、子どもに携帯電話を持たせるときには、携帯電話会社の提供する「フィルタリングサービス」を利用しましょう。

◆事例3 高額なパケット料金の請求
携帯電話で音楽や動画、ゲームソフトをダウンロードしていたら、高額なパケット通信料を請求された。《対処法》パケット通信料は、通信時間ではなくデータ量によって変わります。通話や通信にかかる料金やサービスの内容について、携帯電話会社に確認しておくことが大切です。

☒相談受付時間 毎週月～金曜日
午前9時～正午・午後1時～4時

み んなで拓く人権文化 70
地域振興課人権政策室 (☎47-1102)

こいのぼり
屋根より高いこいのぼり 大きい真鯉はお父さん 小さい緋鯉は子どもたち・・・

五月晴れの空を力強く泳ぐこいのぼりは江戸時代の町民たちが男児の誕生を祝い、健やかな成長を願って始めたものでした。初期のこいのぼりは黒の真鯉だけでこれが男児を表していましたが、時代とともにカラフルになり、複数の鯉を揚げるようになりました。冒頭の歌は昭和初期に作られた歌ですが、この歌により、一番上に揚げられる大きな真鯉がお父さんというイメージが定着しました。

数年前、こいのぼりは封建的な家制度の象徴だとし、家庭内の身分を想起させないよう縦ではなく横につるすことを試みた街がありました。

人間は生まれながらの性別(男・女)と、社会通念や慣習によって作り上げられた「男性像」「女性像」があります。男女共同参画社会においては、性差を否定したり、「男らしさ・女らしさ」や、男女の区別をなくして人間の中性化を目指したり、家族構成や伝統文化を否定したりするものではありません。固定的役割分担(たとえば「男は外で仕事、女性は家事・育児」)や偏見などが社会的に作られたものであることを意識し、従来の社会制度や慣行の見直しをしようとするものです。お父さんお母さんのもとで楽しく泳いでいるこいのぼり一家、このこいのぼりの家族構成は伝統文化として、従来どおりの形で残したいですね。

江戸時代に始まり、わが子を思う親の願いを受けて長い間泳ぎ続けたこいのぼり。時代を超えて大空を力強く泳ぐ姿を見て、子どもたちに強くたくましく育って欲しいものです。(人権教育推進員 安倍昌彦)

今月のサロンコンサート

「もう一度あのころへ
～青春のフォークミュージック～」
月とき・ところ 5月22日(金)午後7時30分～8時40分
文化ホール(入場無料)
月出演 バンブー・テンフル

市内の会社員フォークデュオがおくるコンサートです。反と笑った学生時代、淡い恋心……。あなたの心の中にある青春の1ページを70～80年代の青春の楽曲にのせて思い出させてくれます。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)

お忘れなく！
軽自動車税と
固定資産税第1期
の納期限は
6月1日(月)です。
※便利な口座振替をご利用ください。

図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)

『ケータイ時代』を生きるきみへ 尾木直樹
『くわばらくわばら』長谷川摂子:文 飯野和好:絵
『きずついた つばさをなおすには』ボブ・グラハム

『いのち』と『帝国日本』 小松裕
『借金問題解決バイブル』加藤俊夫
『日本の歴史』十四
『ケイタイ時代』を生きるきみへ

旧海軍美保基地②
基地建設以前のこの地区は、広大な桑畑と松の生い茂った高い砂山が続いていました。用地の強制接収が終ると、直ちに基地建設が始まり、昭和十八年十月に兵舎や格納庫、滑走路の第一期工事が完成。第二期工事として和田駅以西に予科練施設、第三期工事で飛行機の退避壕建設が十九年夏完成しました。工事は、砂山をスコップで削りモッコやトロッコで運ぶ人海戦術で行う突貫工事であったといえます。

基地の内情については、軍関係の資料が終戦時にすべて焼却されたので、自衛隊美保基地広報館の展示資料でその一端を知ることが出来ます。

第三期工事で数十基造られたともいわれる掩体壕(防空壕)のうち、境港市域に現存するのは美保通信所に一基、隊内官舎内に二基の三基のみでいずれも防空壕のようです。

軍用機を空襲から守るために造られた掩体壕には、コンクリートで固められた有蓋のものと、土塁で三方を築き、麻布を緑や

茶色に偽装した天幕で覆う無蓋のものがあつたようです。コンクリート製の掩体壕は、まず壕の大きさの砂山を作り、その上に紙や板、ムシロを乗せ鉄筋を張ります。その上にコンクリートを流し込み、固まったら壕の中の砂を掘り出してその砂を壕の上に敷き、草で偽装したそうです。

資材が不足した戦争末期にはセメントは貴重となり、天井部分に杉板材(幅六寸・厚さ六分・長さ一間半)を相当な厚さに重ねて造った壕も現われました。(幸神町足立一雄氏談)

JR境線の佐斐神町以西に多く見ることが出来た掩体壕も、昭和四十五年に開始された滑走路代替工事で佐斐神町全戸移動とともにすべて撤去されました。

今また時代の要請で、二千五百メートル延長工事が進むなか、かつて汽車の窓から見た掩体壕の記憶はいよいよ色あせてきました。

(市史編さん室 小灘浩)
撤去前の掩体壕
撮影：足立一雄氏